

令和7年1月16日

令和7年度大豆生育定期調査結果 No.4 (軽米町 成熟期の生育・収量・品質)

岩手県農業研究センター 県北農業研究所 作物研究室 (TEL 0195-47-1073 FAX 0195-49-3011)

1 生育・収量 (表1、図1)

成熟期は「ナンブシロメ」、「シュウリュウ」及び「リュウホウ」は平年より4～7日早く、「リョウユウ」は平年より5日遅かった。また、各品種とも成熟期の倒伏と青立ちが目立った。

成熟期における生育は、主茎長は「リョウユウ」を除き平年より短く、分枝数は平年より少なかった。百粒重は平年より重かったものの、着莢数と稔実莢率が平年を下回り稔実莢数が少なかったことで、子実重は平年より少なかった。

成熟期に顕著に青立ちが多かったのは、開花期前後（7月中～下旬）の高温と干ばつの影響で着莢数と稔実莢数が低下し、シンク・ソースバランスが崩れたためと考えられる。

表1 成熟期調査・収量調査結果

品種	年次	成熟期			主茎長 (cm)	主茎 節数 (節/株)	分枝数 (本/株)	着莢数 (莢/m ²)	稔実 莢数 (莢/m ²)	稔実 莢率 (%)	一莢内 粒数 (粒/莢)	子実重 (kg/a)	百粒重 (g)	大粒 割合 (%)	
		倒伏 (日)	青立 (0~5)	蔓化 (0~5)											
	R7	10/15	3.5	5.0	1.0	80.0	16.0	3.6	771	629	81.6	2.07	35.4	29.7	37.4
ナンブシロメ	平年	10/19	2.8	3.0	1.5	83.1	15.9	5.3	1063	926	87.2	2.08	53.7	28.6	30.1
	平年差・比	-4	+0.7	+2.0	-0.5	-3.1	+0.1	-1.7	73%	68%	-5.6	100%	66%	104%	+7.3
	R7	10/12	2.5	5.0	0.5	66.7	16.5	2.5	621	525	84.4	1.68	34.6	42.2	96.1
シュウリュウ	平年	10/17	1.7	1.5	0.6	77.5	16.2	3.5	849	741	87.1	1.68	43.7	37.6	90.1
	平年差・比	-5	+0.8	+3.5	-0.1	-10.8	+0.3	-1.0	73%	71%	-2.7	100%	79%	112%	+6.0
	R7	10/9	4.0	5.0	0.5	70.0	16.2	3.0	681	601	88.3	1.73	34.7	37.4	81.9
リュウホウ	平年	10/16	2.0	1.6	0.5	75.3	15.8	4.6	826	754	91.2	1.75	44.1	35.1	74.2
	平年差・比	-7	+2.0	+3.4	±0.0	-5.3	+0.4	-1.6	82%	80%	-2.9	99%	79%	106%	+7.8
	R7	10/24	4.0	5.0	1.0	79.3	18.5	3.6	839	614	73.1	1.49	34.3	42.8	94.4
リョウユウ	平年	10/19	1.3	1.4	0.4	70.0	16.8	5.8	981	852	87.1	1.67	50.1	38.5	92.4
	平年差・比	+5	+2.7	+3.6	+0.6	+9.3	+1.7	-2.2	85%	72%	-14.0	89%	69%	111%	+2.0

※ 「平年」は令和2年～6年の5ヶ年平均。「リョウユウ」のみ令和3年～6年の4ヶ年平均

※ 「子実重」は粒径5.5mm以上の子実を対象

※ 「諸障害発生程度」は、0（無）～5（甚）の6段階評価。いずれの障害も圃場における観察による評価

2 品質 (表2、図1)

農産物検査では、「ナンブシロメ」と「リュウホウ」はそれぞれ「青未熟」及び「皮切れ」、「カメムシ」による落等が見られたものの、等級は平年並であった。「シュウリュウ」と「リョウユウ」はそれぞれ「皮切れ」及び「カメムシ」、「青未熟」及び「皮切れ」による落等が見られ、等級は平年を下回った。障害粒と外観品質について、いずれの品種も「裂皮」粒と「虫害(カメムシ)」粒が平年より多く外観品質は平年より劣った。「裂皮」粒が平年より多い要因として、着莢数と稔実莢数が少なかったことで粒肥大が促進され、裂皮しやすい条件だったことが考えられる。

表2 品質調査結果

品種	年次	外観 品質 (1-7)	農産物検査			障害粒の発生割合 (%)						
			等級 (1-10)	落等理由	紫斑	褐斑	べと	腐敗	裂皮	しわ	未熟	虫害
ナンブシロメ	R7	6.0	3.3	青未熟、皮切れ	0.0	0.0	0.0	0.7	13.0	5.6	2.8	7.2
	平年	2.9	3.7	—	0.4	0.0	0.0	0.2	4.0	4.2	0.6	1.8
	平年差・比	+3.1	-0.4	—	-0.4	±0.0	±0.0	+0.5	+9.0	+1.4	+2.2	+5.4
シュウリュウ	R7	7.0	6.8	皮切れ、カメムシ	0.0	0.0	0.0	1.1	36.9	1.3	0.3	18.6
	平年	3.4	4.5	—	0.8	0.0	1.0	0.8	3.0	7.1	0.0	3.3
	平年差・比	+3.6	+2.3	—	-0.8	±0.0	-1.0	+0.3	+33.9	-5.8	+0.3	+15.3
リュウホウ	R7	6.8	3.5	カメムシ	0.1	0.0	0.0	1.1	9.5	16.3	0.3	16.6
	平年	3.8	3.4	—	0.7	0.0	0.1	0.2	4.3	13.2	0.3	2.3
	平年差・比	+3.0	+0.1	—	-0.6	±0.0	-0.1	+0.9	+5.2	+3.1	±0.0	+14.3
リョウユウ	R7	6.8	5.5	青未熟、皮切れ	0.1	0.0	0.0	1.3	10.3	3.0	4.2	14.6
	平年	3.0	3.3	—	0.2	0.0	0.0	0.0	3.1	6.0	0.0	1.1
	平年差・比	+3.8	+2.2	—	-0.1	±0.0	±0.0	+1.3	+7.2	-3.0	+4.2	+13.5

※ 「外観品質」は1(上の上)～7(下の下)の7段階評価

※ 「等級」は1(1等上)～9(3等下)、10(規格外)の10段階評価

※ 「紫斑」、「裂皮」、「しわ」及び「虫害」は軽微なものを含む

3 耕種概要

播種日：5月27日

栽植密度：14,286株/10a (条間70cm、株間10cm、1株1本仕立て)

施肥量(kg/10a) : N-P₂O₅-K₂O : 3.0-9.0-7.5

堆肥：おがくず牛ふん堆肥 2,000kg/10a

雑草防除：ラクサ一乳剤 薬液500mL/10a、希釈水量100L/10a (播種後出芽前)

病害虫防除：クルーザーMAXX 8mL/乾燥種子1kg (播種前、塗沫処理)

トレボン乳剤 1,000倍 (6月27日)

スミチオン乳剤 1,000倍 (8月4日)

プレバソンフロアブル5 4,000倍+アミスター20フロアブル 4,000倍 (8月13日)

スミチオン乳剤 1,000倍+ジマンダイセン水和剤 400倍 (8月28日)

Zボルドー水和剤 500倍 (9月9日)

中耕培土：6月26日、7月8日

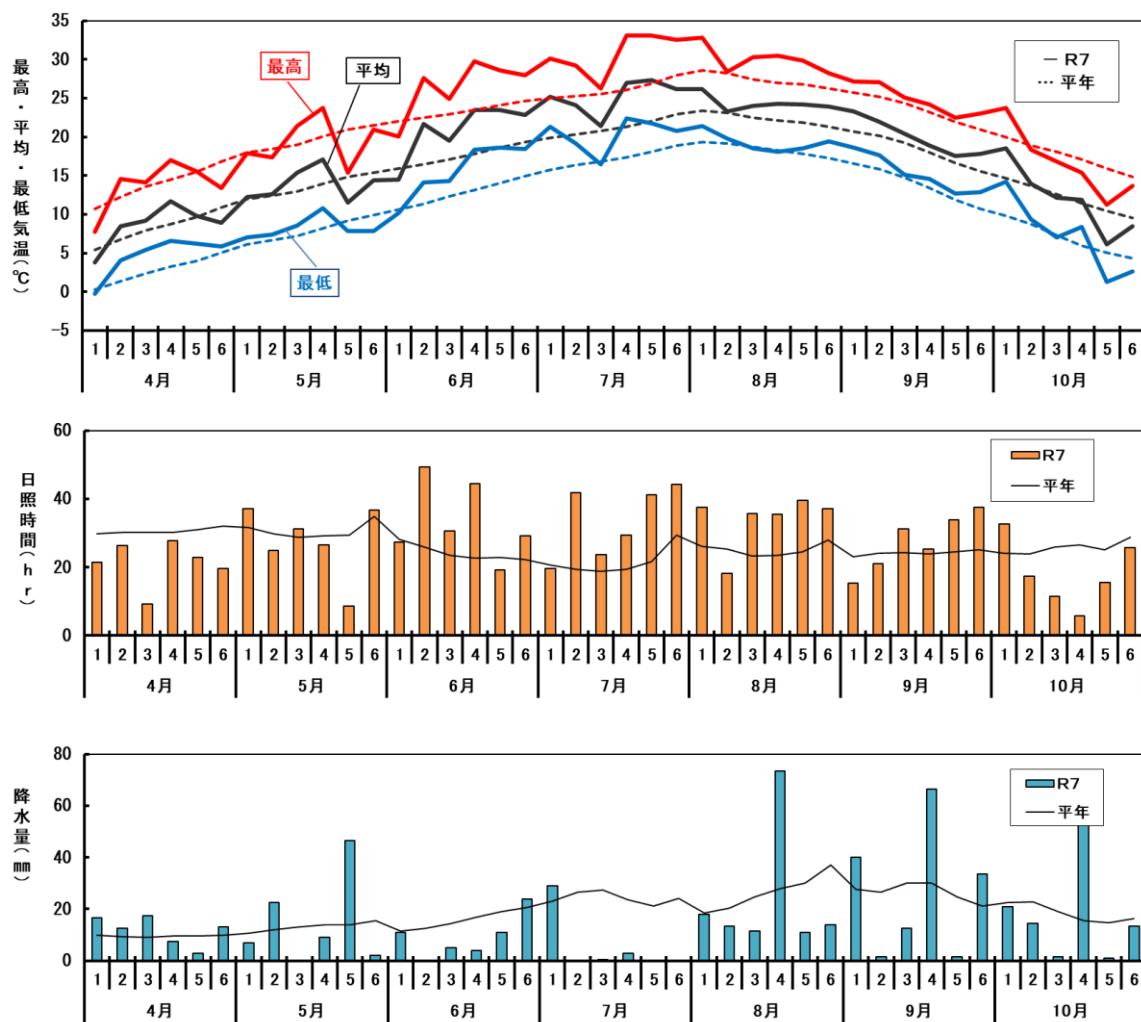


図1 令和7年 県北農業研究所における半旬別気象経過図（10月第6半旬まで）

※ 気温と日照時間は県北農業研究所気象観測値、降水量は軽米アメダス観測値

※ 気温と日照時間の平年は平成9年～令和6年の28カ年平均値

※ 降水量の平年は平成3年～令和2年の30カ年平均値